

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	議会ICT化検討特別委員会
参 加 者	委員長 井町 圭孝 副委員長 小木曾 智洋 委 員 野々山 雄一郎 野本 篤 杉浦 久直 小田 高之 鈴木 英樹 築瀬 太 井手瀬 絹子
視 察 日 時	平成29年5月11日(木) 10:00～12:00
視 察 先 ・ 概 要	東京都立川市 人口：175,388人 世帯数：84,841世帯 面積：24.36 k m ² 特記事項：住みよさランキング2016(東洋経済)総合129位 (安心630位、利便47位、快適67位、富裕31位、住居777位)
視 察 項 目	「議会のICT化」について
視 察 概 要	<p>< 議会のICT化 ></p> <p>立川市議会では、クラウド情報共有システムを導入し、インターネット上のサーバであるクラウドに掲載された情報を、議員、議会事務局、執行部が共有できるようにしている。行政側の各担当課がアップロードした資料を、議員は貸与されたタブレットで、行政側は庁内で使用しているPCで閲覧をしている。また、タブレットはセルラーモデルであり、場所を問わずに閲覧が可能となっている。</p> <p>クラウドに掲載している情報は、会議資料、議員への通知文、議員への提供情報、各種行政計画、議会関係規定などである。議会事務局がフォルダを管理し、掲載資料の整理を行っている。</p> <p>導入を検討していく際、議員への情報提供の迅速化・効率化や、紙の省資源化を図ることを効果として期待していた。実際にシステムを導入した効果としては、閲覧機能と携帯性に優れたタブレットとクラウドシステムの組み合わせにより、議員が時間・場所を問わず資料の閲覧が可能となり、また、議員への各種情報提供に要する時間の短縮が可能となった。さらに、条件はあるものの、検索機能により知りたい情報へのアクセス性が格段に向上した。その一方で、紙の削減については、導入からしばらくは紙とデータの併用としており、段階的に移行しているものの、効果は限定的なものとなっている。</p> <p>紙との併用が続く限り職員側の負担の増大が続き、また端末の紛失・盗難時の具体的な対策が施せない等が課題として浮かび上がってきている。</p>

<p>所 感</p> <p>視察しての感想 や岡崎市への提 言など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議会 ICT 化の柱としての、立川市議会クラウド情報システムは、各議員個人にタブレット端末を配布し、情報の効率的な伝達方法の確立と、紙の省資源化を目的としている。その他の議会 ICT 化として、委員会のインターネット中継やツイッターの導入等があった。今回は主にクラウド情報システムと運用についての説明であったが、電子データと紙との併用が続いている為、情報伝達以外の費用対効果については、当初の期待するレベルまでは到達していないようであった。議会 ICT 化を情報伝達やペーパーレスと捉えるならば、必ずしも各議員共通のタブレット端末の必要性は感じない。あくまでも市民に開かれた議会を目指す議会改革を目的とする媒体としてのハード、ソフトの活用を考えたい。 ・立川市議会では議会で配布される資料のペーパーレス化を進めるため、タブレット型端末を使用したクラウド情報システムを導入し、経費削減、会議の効率化を目的に会議とその他の議員活動におけるタブレット端末を議員全員に貸与している。先進自治体の逗子市を視察し会議用システム用タブレット型端末機使用基準を制定し運用に至っている。議員個々のタブレット端末操作の個人差もあり、現状は紙との併用で運用されており、ペーパーレス化に対する費用対効果が上がっているようには感じられなかった。議会 ICT 化は議会改革の一つのツールであるとの観点が必要ではないかと考える。 ・立川市では、平成 26 年 9 月から逗子市の取り組みを参考にタブレット端末の導入と、クラウドによる情報共有を開始した。当初はクラウドでのデータ提供と紙との併用となっているため、順次削減中とのことであるが、ペーパーレス化によるコストの削減という成果はまだ出せておらず、また、データを PDF 化する部分で、まだ全庁的な取り組みとなっていないせいもあるが、職員の手間の増加ということも大きな課題である。議員の立場からすると、紙との併用でのクラウドでのデータ情報の提供はとてもありがたいと感じる。現状、そして今後の市の職員間での情報共有の動向を把握していないが、議員へのデータでの情報提供、情報共有はぜひ進めてほしいと思うところであるし、それとともに、委員会室、議場への電子機器の持ち込みを可能とするような変更も望ましいと感じる。紙でも提供してもらいたい情報もあるため、順次どこからどこまでをペーパーレス化するかは議論が必要であろう。一方で、全議員へのタブレット端末のレンタルによる配布は、過渡的には必要かもしれないが、それぞれの所有する端末での利用というところで進めたほうが望ましいように感じる。視察の質疑でも町田市の事例で、議会中のアクセスログの開示という話があったが、当然、全く私的で議会と無関係な利用は許されるものではないとしても、議会内でのやり取りの中で確認した内容、どういうページを見ていたのかがもしも開示されるようなことがあるのなら、利用したいとは思わない。 ・立川市では、Sidebooks（安城市でも導入）を ipad air のレンタルで運用しており、文書の閲覧に特化した活用事例である。文書閲覧におい
---	--

ては書類の分類がカギとなるため、フォルダ数や階層をどのように管理するかが課題となっているようである。基本的にはクラウドでの運用のため、紛失、破損時にも KDDI の通信の停止やアカウントの削除等でクラウド上の情報のセキュリティは確保できるのは一つのメリットと考えられる。ただし、レンタルの場合、情報公開の対象になることもあり、広範にわたる議員活動において活用するには制約ができてしまうようである。レンタルにした主な理由も、短期間に導入したので、議員ごとのスキルの差がある中、起動すればすぐ画面が出る設定をして配布することで、理解を得ることとしたとのことであった。個人の PC や端末を別に持ってそれぞれを使い分けている議員の方もいるとのことだが、実際にフルに活用しようと思うとそのようなスタイルになるのではないかと。ただ、そうすると Sidebooks でなくてもサイボウズで充分運用可能であると考えられる。本事例は、あくまでも議会情報、文書の閲覧を端末を使うことにより、即時性や検索性を高め、ペーパーレスも含めた効率化と割り切って参考にすべきと感じた。

・情報の伝達とペーパーレスを目的に導入され、情報提供の時間が短縮と資料がタブレット一つにまとめ手軽に持ち運べることに効果ありとの分析を得た。ペーパーレスに関しては、紙を削減する道筋が難しいとのことだが、段階を踏んでいくことでペーパーレスは可能であると考えられる。またタブレットがレンタルでの配布で、故障などの対応は便利だが、通信機器としてのメール機能を個人アドレスとして市民との個別にコミュニケーション可能かどうか、検索内容においても公務と私的使用の線引きなど決めることが必要になる。今回は、ペーパーレスが実現しなければ費用対効果が見えにくい事例であるが、議会 ICT 化第一歩として参考になる事例ではと感じた。

・今回視察した 2 市の共通点は、共に議会事務局側が積極的に取り組みを進めた感があると感じる。その結果、後者に述べる要検討事項に通じていると感じる。しかし、取り組み内容は参考にしたい所は多岐にあった。【反映したい内容】 東京インタープレイスが、各自治体に導入経験も多いことからフォルダ構成が洗練されていたと感じた。今まで視察した市にもあったが、横断検索ができること。クラウド上にあるため、インターネット環境があることで情報入手ができる。システム用タブレット型端末機使用基準がある。(何か問題が発生した時の一つの違反基準になる)【当市が進めるときの要検討事項】 議会事務局側で進めた結果が原因か分からないが、少しでも予算の抑止は視野に入れるべきと思う。ペーパーレスとは言わないが、できるものは段階を追って計画的に進めるべきと思う。「見える化」「効率化」の観点で見ると、「効率化」の部分色々な負荷を事前に細かく調査する必要がある。調査する前に、その調査項目を委員会ですべて提示したほうが良いと感じる。

・立川市の視察をしたポイントを 3 点まとめた。(1)議会の「効率化」

	<p>における最小限のスタートアップの取り組み、(2)ペーパー ペーパーレス化への過渡期的な取り組み、(3)単純に紙の削減だけを議論すると費用対効果が低いということ。それを踏まえて以下3点を挙げる。(1)シンプルに始めることで合意形成を得やすいこと、(2)情報管理の手法をいかに構築するかを検討すること、(3)タブレット端末の仕様、配布など、細かな制度設計を検討すること。</p> <p>・クラウドシステムを使用しての情報共有を目的に展開されている。通知の資料や情報提供には効果的であることは理解できた。デジタルに得手不得手の方もおられるとのことで、紙媒体も併用していることは少々疑問を感じる。これまで、情報を紙媒体などで来るものであったのを、クラウドなどを利用することで、情報を取りに行くという形態に変わり、当たり前になっていくことを議員が理解することが大事と考える。</p>
<p>委員長の総括</p>	<p>立川市の特徴は、タブレット：iPad セルラーモデルを議会費でレンタルして議員に貸与、システム：Sidebooks を導入して議会運営している、の2点で、今までに勉強したことが無い事例である。</p> <p>タブレットについては、レンタルすることにより(契約内容によるが)、破損や紛失した際の保険がきく点はメリットがあると感じたが、皆が感じているように私的な使い方が制限されるという意味では、議会費でレンタルするデメリットを感じた。便利な機器があっても利用できない時があるとなれば、宝の持ち腐れとなるため、もしレンタルするにしても政務活動費を使用するか、報酬から出すか等の検討が必要と感じた。また、セルラーモデルにすることでどこでも(外出中でも)資料を閲覧することが出来、効率的な仕事をしていく上でメリットを感じる。岡崎市議会でもセルラーモデルの導入が必要か否かは重要な課題となるだろう。(この判断次第でどのような端末を導入するかが見えてくる)</p> <p>安城市ではSidebooksに加え、サイボウズ(グループウェア)も導入していたが、立川市はSidebooks のみの運用。必要な資料はクラウド上で見る事が出来るため、このシステムを入れる事でペーパーレス化することが可能ではあるが、立川市ではまだペーパーレスに至っていない。そのため、議会事務局の負担増につながっているとのこと。ただ、感じたことは、田原市ではグループウェア(サイボウズ オフィス)のみの導入だが、議会で使用するファイルの保存などほぼ同じことが出来ている。保存できる容量に差が有るのかもしれないが、グループウェアとの比較(サイボウズでできる事できない事、Sidebooks でできる事できない事)をしっかりと確認する必要性を感じた。</p> <p>様々な事例を確認することが出来たので、今後しっかりと委員会の中で協議をしていき、委員会としての意見をまとめていきたい。</p>